

科目名	医学史							年度	2026		
英語科目名	Medical History							学期	後期		
学科・学年	柔道整復科 1年次			必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	後藤晃弘、宮本功三、青木伊之、杉本知、加藤健太、秋田雄大、有山敦士			教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師（接骨院にて勤務経験あり）		
<b>【科目の目的】</b> 柔道整復術とは、骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷といった運動機能に生じた損傷を早期発見し、施術により治癒に導くことをいう。薬や観血的療法に頼らず、手技を駆使し自然治癒力を高めて治癒に導く特有の施術である。柔道整復術の始まりは約1300年前まで遡る歴史の長いものであり、この柔道整復術が現在に至るまでの経緯を理解する。											
<b>【科目の概要】</b> 主に予防医学の歩みについて学びます。											
<b>【到達目標】</b> 将来医療従事者を目指していくなかで、医学の現状と社会的な役割を理解していくことを目的としている。医療とは何か、そして柔道整復術とは何かを十分に理解することを目標にしている。柔道整復術の歴史は古く、武道、特に柔術から発展した柔道と結びつくことで、柔道と柔道整復術を相互に関連付けをしていながら将来医療の社会に求められる柔道整復師となるために必要な知識を理解することを目標にしている。											
<b>【授業の注意点】</b> 医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度等には厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。社会の動きや学生の状況等を概説するので、自分でも情報を収集し、起こっている事象の原因や今後の推移について考えること。ただし授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
評価基準＝ルーブリック											
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力						
到達目標 A	医学の歴史について大変よく理解している	医学の歴史についてよく理解している	医学の歴史についてまあまあ理解している	医学の歴史についてあまり理解していない	医学の歴史について全く理解していない						
到達目標 B	柔道整復師の歴史について大変よく理解している	柔道整復師の歴史についてよく理解している	柔道整復師の歴史についてまあまあ理解している	柔道整復師の歴史についてあまり理解していない	柔道整復師の歴史について全く理解していない						
到達目標 C	柔道の歴史について大変よく理解している	柔道の歴史についてよく理解している	柔道の歴史についてまあまあ理解している	柔道の歴史についてあまり理解していない	柔道の歴史について全く理解していない						
到達目標 D	柔道整復術や柔道の特性や伝統的な考えを持ち、相手を敬い、礼儀に重んじた行動様式をとることができる	柔道整復術や柔道の楽しさを味わい、お互いに協力し教え合って取り組むことができる	自分の状況に合った実現可能な課題を設定し取り組むことができる	相手を尊重し敬う、お互いに協力する、礼儀に重んじた行動様式が少々欠如している	柔道整復術や柔道の特性や伝統的な考えを持ち、相手を敬い、礼儀に重んじた行動様式をとることができない						
到達目標 E	目標に関わる課題に対して適切に回答できており、かつ自分の意見が反映されている	目標に課題に対して適切な回答ができており、キーワードも用いられている	目標に関わる課題に対して適切な内容ができており、一部のキーワードも用いられている	目標にかかわる課題に対してキーワードが用いられていないが、概ねできている	目標に関わる課題において、課題に関係のない内容で行われている						
<b>【教科書】</b> 教科書（柔道の資料柔道整復理論-社団法人 全国柔道整復学校協会 監修-）に準拠する。											
<b>【参考資料】</b>											
<b>【成績の評価方法・評価基準】</b> 試験と課題を総合的に評価する。											
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。											

科目名		医学史			年度	2026
英語表記		Medical History			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	医療倫理	予防医学の歴史	1 衛生・養生	衛生や養生は何かを理解する	3	
			2 発展の年表	公衆衛生発展の年表を理解する		
			3 歴史人物	諸外国と日本の歴史人物を理解する		
2	柔道整復師・柔道整復術の沿革	柔道整復術の体系化	1 柔道整復術の歴史人物	柔道整復術の歴史人物を理解する	3	
			2 歴史人物の経緯	歴史人物の経緯を理解する		
			3 歴史人物の研究	歴史人物がどのような研究をしてきたかを理解する		
3	柔道整復師・柔道整復術の沿革	柔道整復術試験の施行	1 医療制度改革	医制の制定を理解する	3	
			2 医療改革の名称	法改正名、接骨業公認運動を理解する		
			3 柔道整復術試験の実施	どのような経緯で柔道整復術試験が実施されたかを理解する		
4	柔道整復師・柔道整復術の沿革	柔道整復術の公認	1 当時の公認資格	受験資格を理解する	3	
			2 資格内容	業務内容を理解する		
			3 資格状況	資格者達の公認運動を理解する		
5	柔道整復師・柔道整復術の沿革	柔道整復師法の成立	1 養成施設教育の開始	養成施設の経緯を理解する	3	
			2 養成施設開始への法律	養成施設開始にあたっての法を理解する		
			3 単独法	柔道整復師等に関する法律について理解する		
6	柔道整復師・柔道整復術の沿革	指導要領の制定	1 指導要領	指導要領について理解する	3	
			2 教育内容	教育内容について理解する		
			3 教育科目	教育科目について理解する		
7	柔道整復師・柔道整復術の沿革	柔道整復師法の大改正	1 国家試験への移行	国家試験への移行について理解する	3	
			2 他の医療関係職種との均等化	他の医療関係職種との均等化について理解する		
			3 基礎・必修科目内容	科目内容について理解する		
8	振り返り	前半の振り返り	1 予防医学の歴史	予防医学の歴史について理解する	3	
			2 柔道整復師法	柔道整復師法について理解する		
			3 養成施設教育	養成施設教育について理解する		
9	柔道整復師と柔道	柔道整復師と柔道	1 柔道整復師の変革	柔道整復師の変革について理解する	3	
			2 活法と殺法	活法と殺法について理解する		
			3 柔術から柔道	柔術から柔道への移行を理解する		
10	柔道の歴史	誰が柔道を創始したか	1 創始者	嘉納治五郎師範の生い立ちを理解する	3	
			2 創始年	柔道の発祥の地、創始年を理解する		
			3 柔術流派	嘉納師範が修業した柔術流派を理解する		
11	柔道の理念	柔道の基本的な考え	1 精力善用	精力善用について理解する	3	
			2 自他共栄	自他共栄について理解する		
			3 人間形成	柔道の基本的な考えを理解する		
12	柔道の目的	柔道修行の目指すところ	1 遺訓	嘉納治五郎師範の遺訓を理解する	3	
			2 体育法・勝負法	修行目的の体育法と勝負法を理解する		
			3 修心法	修行目的の修心法を理解する		
13	礼法・受身について	作法について	1 敬礼と拝礼	敬礼と拝礼について理解する	3	
			2 立礼・坐礼	立礼と坐礼、起坐右起に右について理解する		
			3 受身	受身の種類や方について理解する		
14	振り返り	後半の振り返り	1 柔道の歴史	柔道の暦について理解する	3	
			2 柔道の理念	柔道の理念について理解する		
			3 柔道の目的	柔道の目的について理解する		
15	形、技、審判	技、ルール	1 講道館柔道の形	形の種類を理解する	3	
			2 講道館柔道の技	技の種類を理解する		
			3 審判規定	審判規定を理解する		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他  
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった  
備考 等